

第2回ワークショップ実施報告書

－ 「子育て・教育」「観光・移住定住」 －

- 【開催日時】 2023年12月16日(土) 10:00 - 12:00
- 【開催場所】 市川三郷町役場大会議室
- 【参加人数】 18名
- 【配布資料】 10年後を描く住民ワークショップ<第2回>資料 (ppt)

【スケジュールと項目】

本日の予定	
10:00～	開会・挨拶
10:05～	本日の進め方の説明
10:25～	ワークショップ(WS) 市川三郷町の強み・弱みを考える 「子育て・教育」「観光・移住定住」
11:40～	WSからの発表
11:55～	閉会の挨拶

【ワークショップ】

第2回では、「子育て・教育」「観光・移住定住」の2テーマについて、強みや弱みについて考え、さらに10年後に変わって欲しいことについてチームで話し合った結果を、最後にチームごとに発表していただきました。

本日の進め方

本日のテーマ

「子育て・教育」「観光・移住定住」

ステップ1

市川三郷町の強み・弱みについて各自で考える

ステップ2

考えた強み・弱みを共有する(チーム内)

ステップ3

10年後に変わっていて欲しいことは何だろう?(みんなで考える)

ステップ4

本日の成果を発表する(各チームから全体に)

7

本日の進め方

ステップ1～3

模造紙作成のイメージ例(これにとらわれる必要はありません)

子育て・教育

経済的に大変
学か
のびのび育つ
子どもの居場所
保育所

小学生が安心して遊べる場所を増やしたい
こども食堂を増やしたい
子育ての孤立をなくしたい

観光・移住定住

観光スポット
特産品
イベント
過ごし方

移住者にとっての魅力・欠点
魅力ある(有名な)特産品・土産物を増やしたい
空き家の活用を増やしたい
カフェを増やしたい

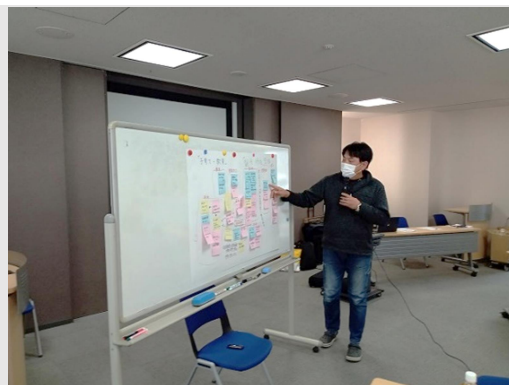
チーム●●

12

【主な発表内容】※主な提案に下線

《チーム1》

- 観光名所はたくさんある（みたまの湯、四尾連湖 など）。特産物も大塚にんじんや花火などがある。
- 一方で、「甘々娘」や「大塚にんじん」は有名だが、それ以外の特産物は知られていない。特にハンコは衰退の一方。今後魅力として掘り起こしできれば良い。
- 子育て環境としては、良い面として待機児童がいないことが挙げられるが、定員に対して子どもの数が少ないだけなのではないか。
- 人を呼ぶ、子育てをする環境を整える意味で、スポーツ施設などの更新。現在の国際基準に合わせてはどうか。
- 子どもが少なくなり、未使用の教室があるので、うまく活用して塾を開設するなどしてはどうか。
- 空き家も増えてきている中で、ただ解体するのではなく、高校の建築科の教育材料としてはどうか。
- 産婦人科がないのは、大きなデメリットと考えている。子どもを産みやすい環境を整えられるとよい。



《チーム2》

- 空き家や空き店舗が多いので、お試し住宅を作って、1年・2年お試しで住んでもらうのも良い。
- 人が減ると耕作放棄地が増えて、スペースは出来ても農振が進まないと家が建てられない。
- 少子高齢化の状況だと、社会スポーツが減少し、人の繋がりもなくなっていく。
- 教育の面では、町に高校があり、医療費も高校まで無料。少人数学級は良い面悪い面があるとは思いますが、良い面として捉えられるとよい。
- 小学生に対して学童があるならば、「学老」があっても良い。同じ建物の中で交流があれば教育に良いと考えた。
- 出産祝い金については、10年在住を条件にある程度の高額（100～500万円）を出せば、人が増える可能性がある。
- 交通については、六郷 IC があるが、ただ降りて通過する場所になっている。道の駅や町にある7つの駅をうまく繋げて活用できれば良い。
- 観光につながる産業の内容も、固い内容の情報発信ではなく、ゆるく楽しんでみられる、またはマスコミに取り上げていただけるような情報発信があるとよい。
- 観光としては、映えスポットを上手く繋げると周遊できる観光も可能となる。（歴史ある芦川ダム→四尾連湖→寺の桜→ハンコを彫る→紙を漉いて→農産物の収穫など）お金を落としてもらえる仕組みの構築が必要。



《チーム3》

- 観光はたくさんある。神明の花火、四尾連湖、農産物、ハンコなど色々特産品はある。
- デメリットとしては、ネームバリューが少ない。県内で有名でも全国的には知名度低め。観光のニーズが求めるものを作っていくことが必要。
- 市川三郷町は災害が少ないが、空き家が多く、道が狭い。家を建てられる場所がないので、定住する気になれない。宅地化や空き家の活用が必要。
- 教育について、医療費無料や高校がある、各地区小中学校があるなどメリットはあるが、学校と地域の結びつきが少ないと思う。改善案として、たとえば高校で小規模な交流会を開催する。内容としては、高齢者へのスマホ教室など）大規模は費用面やマンパワーの面で難しい。
- 各地区に学校があることが大事。統合されると通学時間が大幅に伸びて、通うことが難しくなる。
- いろんなアイデアはあるが、町の大人がアイデアから生まれる活動を受け入れて、住民が意識を高めていくことが必要。
- 人は財産なので、各々が活躍できる町になることが大事。



《チーム4》

- 青洲高校がもっと地域と連携していけるとよい。高校の部活に商業研究部があり、その作品として、和紙を使用した「サウナハット」が高島屋で販売された。若い力を活用すれば、もっと町が活性化すると思う。
- 市川三郷町は、県の真ん中に位置して、商業施設にもアクセスしやすいメリットがある。なので、大きな施設を作るのではなく、住みやすさを追求して、子どもから高齢者までが使いやすいバスの運用（必要な時間だけでも本数増やす）、シャッター街に絵を描くことや、空き家をリノベーションして活用してはどうか。



《チーム5》

- 人口が少なくなってきた中で、過疎化してきているところもあるので、町に施設を集約して、ライドシェアや巡回バスで繋げた方が、住民の足として機能すると考えた。
- 今の住民が幸せでないと、今の高校生や子どもたちが戻ってきて家庭を作っていくことは難しくなると考える。
- 観光については、農産物や伝統文化、景観などがあるが、施設について維持費がかかるので、住民が使いやすいことを前提に工夫しながら、どのように維持していくのか。また、特産品をどのように広めていくのか。六郷 IC の周辺の開発や高校生が寄り道施設がないの充実させていくことが必要。
- 学園都市のようなイメージで未来に残せる環境づくりを進めて行ければと思う。



【WS風景】



以上